



# NPO通信

## 和田あき子学長、川崎市文化賞受賞

かわさき市民アカデミー学長和田あき子先生の「平成24年度川崎市文化賞」受賞が決定しました。「川崎市文化賞」は川崎市の文化の向上及び発展に尽力し、寄与された方に与えられます。和田先生はアカデミーの開学以来の講師であると共に運営の中心としてアカデミーを支えてこられました。今回の受賞は先生の活躍が川崎市の文化向上に寄与する所が大きかったとともにアカデミーの存在自体が川崎市から評価された事でもあります。受講生の皆様とともに先生の受賞を喜びましょう。なお授賞式は11月8日（木）14:00～16:00「国際交流センター」で行われます。

## 2012年度後期講座・ワークショップの開講

## 2013年度前期講座・ワークショップ日程表作成スタート

2012年度後期講座・ワークショップが開講されました。楽しく学んでゆきましょう。この時期には2013年度前期講座・ワークショップのカリキュラム編成作業が始まります。学習内容が詰められ、検討・修正された結果が日程表の形にまとめられ、受講生募集案内（全体チラシ）に中に書き込まれてゆきます。

## 【1】2013年度前期日程表作成スケジュール（予定）

アカデミーでは毎年上期と下期に受講生募集案内を配布し受講生募集を行っています。この受講生募集案内にはアカデミーで実施される凡ての講座とワークショップの学習内容、講師、開催日時や場所が記載されています。これはどのようにして作られているのでしょうか。今月号はこの作成過程を紹介します。まず日程表作成の過程を見るために、進行予定表を記します。

### 2012年

- 9月10日：カリキュラム企画・編成委員会 → 日程表作成開始
- 10月20日：企画・運営委員会 → カリキュラム全体の調整
- 11月19日：カリキュラム企画・編成委員会 → 日程表の第一次締め切り
- 11月21日：コーディネーターからの日程表原稿最終締め切り
- 11月26日：印刷屋への原稿入稿
- 12月27日：校正終了・印刷開始（この間3回の校正作業）

### 2013年

- 1月11日：生涯学習プラザへの「受講生募集案内」納品予定
- 1月14日：「受講生募集案内」の新聞折り込み
- 1月中旬：「受講生募集案内」の各施設への配布
- 2月初旬：新規受講生募集説明会（予定）
- 2月15日：会員・聴講生申込締め切り
- 2月末：受講生決定通知及び受講料納付用紙等送付

日程表作成開始から受講生募集まで4ヶ月を掛けて、落ちがないように慎重に行っています。

## 【2】 日程表作成作業

9月10日：カリキュラム企画・編成委員会の開催が正式な日程表作成開始ですが、それに先立ち、多くの講座やワークショップでは受講生の希望や要望を把握する為にアンケートを実施しています。この結果と世話人や担当理事の意見を加えて日程表作成者であるコーディネーターと話し合いがもたれます。コーディネーターはそれらの意見を参考としながらテーマの決定とその学習内容や担当して下さる講師の選定を行います。

多くの場合、この段階で担当理事や代表世話人との意見交換が持たれ、内容の一部が修正されてゆきます。コーディネーターの先生も受講生の要望を活かすように努めておられます。

また講座・ワークショップのテーマの重複や全体的なバランスの調整は企画・運営委員会で行っています。

このような過程を経て最終的な日程表が作成されると印刷屋に入稿し、第1刷目が刷り上ります。校正は3回にわたって行われます。誤字や記載ミスを代表世話人や担当理事がチェックし修正しています。これらの作業はすべてボランティアで行っています。

年明けには正式な「受講生募集案内」が納品され、プラザで受講生の皆様に配布されるとともに、主として朝日新聞に折り込まれます。これが受講生募集の開始になります。この費用は財団から援助していただいています。さらにNPO広報部が中心となり「新規受講生募集説明会」の開催や広報活動をおこなっています。

多くの方々のボランティア活動のおかげで講座の開設ができています。皆様の無償の活動に感謝いたします。

## 理事会報告

(詳細は議事録と資料をご覧ください。事務局に常備してあります。)

「2012年度8月理事会」2012年8月21日(火) 13:30~17:30

審議事項：13件、報告事項：11件

### 主な審議事項

- ① 事務局主体の運営について
- ② アカデミー学習システム(案)について
- ③ 20周年記念事業実行委員会設置要領(案)について
- ④ 会議の公開規程(案)について
- ⑤ 第2次中期経営計画作成について

### 主な報告事項

- ① 2012年度後期受講申込状況について
- ② 2012年度フェスタについて
- ③ 企画・運営委員会の報告について
- ④ 地域活動検討小委員会の報告について
- ⑤ 2012年度前期決算見込について

アカデミーも開学20周年を迎えました。来年度は20周年記念事業を行いたいと考えています。このための実行委員会設置の提案がなされました。また前期運営代表世話人会議でも議論されたNPO諸会議の公開規程等が議論されました。

## 企画・運営委員会報告

「第3回企画・運営委員会」2012年9月3日（月）17:37～19:15

審議事項5件、報告事項：2件

### 審議事項

- ① 2013年度「エクセレントⅠ、Ⅱ、Ⅲ」、「現代事情」、短期集中講座について
- ② 2013年度「暮らしの中の科学」講座名とコーディネーターの選出について
- ③ 「映像・メディア」コーディネーターの選出について
- ③ 2013年度前期カリキュラムの作成について
- ④ 2013年度前期「エクセレントⅢ」と「いのちの科学」講座の会場について

### 報告事項

- ① 2012年度後期受講生申込状況について
- ② 夏休み子ども理科教室に実施報告

企画・運営委員会では複合講座（エクセレントⅠ、Ⅱ、Ⅲ、現代事情、短期集中講座）の日程表作成やカリキュラムにかかわるアカデミー運営に関する事項の総合調整を行っています。各講座・ワークショップの開催場所や曜日・日時はこの委員会で最終決定されています。委員は学長、副学長、財団、NPO委員から構成され、委員長は学長が務めています。

## 地域活動のトビラ

地域活動のテストケースとして「夏休み子ども理科教室」を開催いたしました。

日時：8月6日（月）午前：10時～12時 午後：1時～3時 プラザ301教室

【1】『プルルプリン、食べて学ぶ地震実験教室』 講師：増淵先生、中村先生

【2】『ペットボトル顕微鏡を作ってみよう』

講師：「いのちの科学ワークショップ」受講生有志

小学5、6年生17名と10名の父兄が参加されました。なおこの試みには東京応化科学技術財団の後援をいただきました。

### 【1】『プルルプリン、食べて学ぶ地震実験教室』

「日本列島は地震が多いですね。昨年も東日本に大きな地震がありました。今日の実験は地震が地盤の硬さによる、振動の違いや、建物の揺れの違い、そして建物の揺れを和らげるにはどうしたら良いかをプリンや羊羹を使って楽しく実験しながら理解を深めましょう。また、液状化とはどのようなものかも実験でしらべてみましょう。」小学5年、6年生の楽しく理解が深まった実験模様です。

Ⅰ 紙プルルの家を組み立て、家の揺れ方を調べてみましょう。

(1)何もつけない時の揺れ方を覚えておきましょう。



(2)屋根、筋交いを付けたら、屋根の重さの違いや、筋交いの入れ方による揺れ方の違いを実験で体験できました・・・

(3) 実験で判ったこと

①屋根は軽いほど揺れが少ない

②補強すると「筋交い」家は強くなる

③バランス「筋交いの入れ方、2階と1階の重さ、」にとって揺れからが違います。

そこで質問：重い金庫を何処に置いたら安全でしょうか。

「ハァーイ、1階が正解」よく出来ました。

Ⅱ 「柔らかい」地盤と「硬い」地盤に家を建てた場合、揺れの違いはどうなるかの実験（プリンと羊糞で比較）

プリン：『柔らか地盤』と羊糞：『硬い地盤』ではどちらの揺れが大きいですか。

正解は「プリン」でした。

Ⅲ 液状化現象の理解を深めました。エッキー（地盤液状化実験ボトル）を使っての実験。

(1)砂の入ったエッキーをよく振って→静かに置き→砂が積もるのを待ちます。

(2)砂が積もったボトルに刺激（横、縦振れ）を与えて地震を起こすと・・・砂の中のピンが飛び出して来ました！これがペットボトル内の液状化現象なのです。地面の中でおこる液状化現象です。

最後にプリンと羊糞を食べながら先生と会話する和やかな中で、地震の怖さへの対応が実験で深められました。楽しい実験教室でした。又やって欲しいとの要望に関係者及び先生方も満足でした。

## 【2】『ペットボトル顕微鏡を作ってみよう』

ここではペットボトル顕微鏡の製作と、これを使って植物の葉の細胞を観察しミクロの世界を通して生命科学の一端に触れてもらうという実習を行いました。

生徒さんのお母さん、おじいちゃんら、父兄も多数参加され、教えるのはアカデミー「いのちの科学」受講生の男女5名で、みなさん生徒に教えるのは初めての経験でしたので、生徒も先生も少し緊張していたと思います。

顕微鏡の原理などの解説は、ちょっぴり難しかったかもしれませんが。ペットボトル顕微鏡の製作過程で難しいのは、キャップの真ん中に直径2ミリ程度のガラスのビーズ玉が外れずにおさまるように穴を開ける作業です。キャップのネジを閉めたりゆるめたりして、葉の表面を薄く削った試料との焦点距離を調節します。生徒さんたちの作業が進み、葉の細胞が見えるようになるのに予想外の時間がかかってしまい苦戦しましたが、ほぼ全員が葉の細胞を見ることが出来てホッとしました。この顕微鏡と試料を持ち帰り、弟たちにも見せるといった生徒さんがいて、にわか講師は大いに感動した次第です。

今回の理科教室開催にあたって、にわか講師を務める受講生5人は事前にたくさんの試作品や工具の工夫をして臨んだのですが、想定以上に作業の進捗や材料にバラつきが出てしまったので、次回はこれらの反省点を改善し、より良い理科教室をめざします。

『編集後記』 木の間より洩りくる月のかげ見れば 心尽くしの秋は来にけり

空気が澄み、天高く馬肥ゆる季節になりました。アカデミー後期講座・ワークショップも開講されました。先生方と協働してカリキュラムの充実に努めてゆきますので、引き続き受講生の皆様のご支援をお願いします。

編集責任者：折居 晃一、田辺 初子、高橋 富夫、原 宏、西山 拓

【NPO法人かわさき市民アカデミー TEL044-733-5590】